

# かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗



飛鳥建設株式会社  
羽村駅西口地区都市計画道路  
3・4・12号線外擁壁築造工事  
工事課長

愛川 智

1992(平成4)年、飛鳥建設株式会社に入社。以来、ダム工事、造成工事、下水処理場工事等を経験し、現在に至る。



## 常に優先順位を考え、 日々の作業工程を管理する

入社して3年目、ダム工事で水路の新設工事を担当していた時のことです。水路は3面張りとなっており、均しコンクリートを打設してから底面と側面のコンクリートを打設していくという工程を繰り返す工事でした。順調に工事は進んでいったのですが、ある地点で底面のコンクリートを流し込んだところ、コンクリートの数量が足りなくなる事態が起こったのです。気付いてから慌ててコンクリートの追加発注をしましたが、ダムの施工現場は山奥のため到着まで1時間程かかります。コンクリートの到着まで作業員を待たせてしまい、作業工程にロスタイムが生まれました。

失敗した原因を考えてみると、均しコンクリートを打設した後に高さを確認せず底面のコンクリートを流し込んだことが原因でした。設計図面通りの高さになっているだろうと想定しており、底面の型枠内の高さを計測して数量を確認するという作業を怠ってコンクリートを発注していたのです。それまでは同じやり方で失敗せずに進められていましたが、現場作業は必ずしも設計図面通りであるとは限らないことを実感しました。

確認作業を怠ったため、コンクリート発注数

量を見誤る失敗をしましたが、失敗を防ぐためには事前の確認作業がいかに重要かということを変更して認識する機会になりました。確認作業を行うためには、スケジュールの組み立て方が肝心です。1日の作業工程のなかで優先順位を考え、確認作業もスケジュールに組み込む。翌日の作業工程が考えられれば、今日やっておかなければいけないことも見えてきます。今日やれることは先送りせず、早めに行うことは行う。常に優先順位を考えスケジュールを作成する意識を持つことが大切であると、部下にも言い続けています。多分大丈夫だろうという考えが、多くの人に迷惑をかけてしまう失敗に繋がるのです。

東京土木施工管理技士会の優良技術者表彰をいただいた「みやぎ水再生センター雨水ポンプ棟建設その4工事」でも現場全体で日々の作業工程確認を徹底させ、工期内に工事を終えることができました。

現場で行わなければいけないことは多々あり、若手の方にとって作業管理は難しいかもしれませんが、それでも作業工程を整理し、自分で行った作業はもう一度確認する習慣をつけてほしいと思っています。